

## 会 議 録

会 議 名	令和6年度第2回野田市保健医療問題審議会
議 題 及 び 議 題 ご と の 公 開 又 は 非 公 開 の 別	1 次期計画の基本理念について（公開） 2 次期計画の目標設定の考え方について（公開） 3 次期計画の重点分野における目標と取組について （重点分野1から6）（公開） 4 その他（公開）
日 時	令和6年11月14日（木） 午後1時30分から午後3時15分まで
場 所	保健センター3階 大会議室
出 席 委 員 氏 名	門倉 正樹、岡田 吉郎、島田 恭光、種村 伴子、清岡 智、 茂木 泉、新 玲子、間中 恵美、平野 美佐子、鏡 浩美、 張替 洋子、内田 茂子、小川 賢司
欠 席 委 員 氏 名	谷口 勲、相川 竜一、石塚 勝巳
事 務 局 等	今村 繁（副市長）、代田 明洋（健康子ども部長）、池田 亜由美 （健康子ども部次長）、峯崎 光春（保健センター長）、中山 知子 （保健センター長補佐）、秋鹿 弥由紀（保健センター長補佐）、村 山 佐知子（関宿保健センター長）、古瀬 奈津代（保健センター健 康増進係長）、初見 亜希子（保健センター母子保健係長）、飯塚 純子（保健センター主任主査）、張替 みえこ（保健センター主査 ）、佐藤 亮（保健センター主任主事）、山本 茂（国保年金課長 ）、山中 巖（農政課長）、齋藤 豊（スポーツ推進課長補佐）、岡 田 勇貴（障がい者支援課長）、山口 忠司（高齢者支援課長）、宮 下 幸治（子ども保育課長）、高林 雅行（生涯学習課主幹）、廣居 信和（学校教育課長）、木之下 友城（指導課指導主事）
傍 聴 者	2名

議 事	会議結果（概要）は、次のとおりである。
司 会	<p>令和6年11月14日午後1時30分、令和6年度第2回野田市保健医療問題審議会の開催を宣言した。</p> <p>定足数充足による会議成立について報告した。</p> <p>会議録作成のため、録音することに了承を得た。</p> <p>会議の公開及び傍聴並びに会議録及び会議資料の公開について説明し、2名の傍聴の申出があり、円滑な議事進行を図るため、既に入室済みであること並びに、会議の途中で傍聴の申込みがあった場合、入室を認めることに了承を得た。</p> <p>会議資料について説明した。</p> <p>会長挨拶を求める。</p>
会 長	<p>&lt;会長挨拶&gt;</p>
司 会	<p>以降の議事進行を、条例第6条第1項により、本審議会の会長である門倉会長に願います。</p>
会 長	<p>議題1 次期計画の基本理念 について事務局へ説明を求める。</p>
保健センター長	<p>&lt;事務局説明&gt;</p>
会 長	<p>説明の内容について、質疑及び意見を求める。</p>
小川委員	<p>基本理念について違和感を抱く。そもそも、この健康づくりの主役は誰かということ。この主役というのは野田市民一人一人、その方々が健康作りに励んでもらい、一人一人が健康を維持してくれるということ。その結果、去年の4月1日に宣言された健康都市につながり、それが実現するという。だから非常に説明内容、提示している基本理念には違和感を抱く。どういう基本理念がいいのかと私なりの考えを持っているが、取りあえずは今、違和感があると申し上げたい。</p>
会 長	<p>お考えを今この場でお話したらいかがか。</p>
小川委員	<p>その基本理念というのは、市民一人一人が全ての人の願いである健康作りに主体的に取り組み、生涯健康に恵まれた人生の実現を図る、と考えている。</p>

<p>保健センター長</p>	<p>一人一人が健康づくりの主役であるということ、それから生涯にわたって取り組むということ、その人生を実現していく、目指すところは委員がおっしゃっているところと同じと思う。</p> <p>健康スポーツ文化都市宣言の中に市民一人一人が生涯にわたって取り組んでいく中でそういったものを実際に市民の皆様に届けるメッセージ、そして野田市の方で都市宣言の中で、夢のある住みよいまち、元気で明るい家庭を築けるまちという言葉を使っている。市としては、健康スポーツ文化都市宣言の考え方を象徴的に表す目指すべき姿として、この夢のある住みよい野田市、元気で明るい家庭を築ける野田市というところを入れさせていただきたいと考えている。</p> <p>ただ、市民一人一人が主役という細かい表現の工夫に関しては、委員の意見をなるべく取り入れたいと思う。</p>
<p>小川委員</p>	<p>私が違和感を抱いている理由は、非常に飛躍があり、今後理解が非常に難しくなってしまうのではないかと。健康づくり計画という一つの分野で、その理念が健康スポーツ文化都市というところに持って行くと余りに飛びすぎているのではないかと。だから一般の市民の方からすれば、非常に分かりにくく、違和感を持つのではないかと。やはり焦点を絞るというのは非常に重要なことだと思う。</p>
<p>清岡委員</p>	<p>小川委員の意見には、半分賛成。健康の定義でフィジカルな健康づくりだけではなくて、メンタルもあれば、社会性など全て含めた理論であり、この基本理念に違和感私は感じないが、ターゲットを絞るという案には賛成で、その辺も含めてお考えいただきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>議題1の次期計画については引き続き議論するということでした承する。</p>
<p>会長</p>	<p>議題2 次期計画の目標設定の考え方について説明を求める。</p>
<p>保健センター長</p>	<p>&lt;事務局説明&gt;</p>
<p>会長</p>	<p>説明のあった内容について、委員に質疑及び意見を求める。</p> <p>&lt;質疑なし&gt;</p>
<p>会長</p>	<p>意見等がないため、議案2 次期計画の目標設定の考え方について</p>

<p>会 長</p>	<p>は事務局案のとおり承認することとする。</p> <p>議題3 次期計画の重点分野における目標の取組について説明を求める。</p>
<p>センター長</p>	<p>&lt;事務局説明&gt;</p>
<p>会 長 清岡委員</p>	<p>説明のあった内容について、委員に質疑及び意見を求める。</p> <p>6ページの肥満者の割合ですが、このデータを見ていると令和4年だけ数字が違う。3年から4年に掛けて変わり、5年になってまた落ち着いている。他の女性も20代から60代で令和4年だけ高いが、同じグループを見ていて、年間でこんなにずれるってことはあり得ないと思うが、測定の仕方が違うのか、測定者数が違ってパーセンテージに狂っているのか、ここを調べないとせつかくの数值が台無しになってしまう気がして、質問をさせていただいた。</p>
<p>保健センター長</p>	<p>データの集計方法や調査の仕方が変わったという訳ではない。数字自体の条件は一緒と考えているが、これだけ数字が違うのは、事務局としても疑問を感じており、データは、特定健診や若者健診を用いているため数が極端に変わっているわけではない。これについては、調べて回答する。</p>
<p>副市長</p>	<p>事前に資料を見たが、ここに限らず、データにイレギュラーなところが見られる。この若者健診、特定健診を毎年受ける人、受けない人といるので、一年単位で見るとは、全体として大きな流れとして減少傾向か、横ばいか、それとも増加傾向かという視点で考えてほしい。この一つの特異の数值に着目して、そこを分析するというのは現在の情報量からは困難と考える。</p>
<p>会 長 島田委員</p>	<p>他の質疑、意見を求める。</p> <p>朝食を食べない、食べられるようにしよう、家族で食事をしましよ、という構想を進めるに当たり、されていない人の割合の中で、なぜ食べない、食べられない人がいるかというアンケートは採ったことはあるか。私が聞いたところでは、学校でしかご飯が食べられないという人もいて、給食だけが自分の食事という人、朝御飯がそもそもな</p>

学校教育課長	<p>いという話も聞いたことがある。そういった統計からもどのように摂取勧奨を進めるかというやり方が変わってくる。そういったアンケートをもし採っていたら教えてもらいたい。</p>
会長	<p>学校の方では朝食習慣アンケートを採っている。アンケートの中では、ほとんど食べないというような回答は増えている。ただし、このアンケートの中では、その理由まで書かせてはいないため、今後、その理由の把握については、教育委員会の方で検討を進めたい。</p>
小川委員	<p>ほかに質疑・意見を伺う。</p> <p>23ページについて、喫煙率減少の目標率の10%、7%これの妥当性ということ考えたときに一つ参考になるのが、国や県が、どのような目標を定めているのか伺いたい。</p>
保健センター長	<p>喫煙率の国の目標値は、12%。県は、男性で12%、女性で5%としている。ただし期間が違い、国と県の目標年度は14年度となっている。</p>
小川委員	<p>国と県の目標値が女性で5%ということは、野田市としては、7%という高いところでやむ得ないということか。男性は国と県が12%、野田市は10%になっている。中間値を見ればまだ高いが、そういう意味で、国や県の目標値を考慮した形で目標設定をするべきではないか。野田だけが低いということは余り妥当性がないと思う。</p>
副市長	<p>意見のとおりで、全てにおいて意識してやれということで進めているが、少し高めの目標値となっているのもある。これについては、審議会の意見の中で訂正すべき箇所は訂正するよう話をしている。基本的には国、県を上回る目標というのは、余り考えられず、考え方のところで言ったように、努力すれば達成できる目標を立てている。しかし、国や県に達成できて、なぜ野田市ができないのかと言うのが基本的な考え方であると思うため、今の意見はもう一度検討する。</p>
小川委員	<p>さらに付言させてもらおうと、喫煙は非常に健康面で害あって益なしという状況になりつつある。社会的にも非常に喫煙に厳しい中で、この計画と目標値の設定に当たり冒頭の説明資料の中で、達成できる可</p>

	<p>能性があるかどうか勘案しながら、設定するのは一般的だと思う。</p> <p>ただ、今日は健康づくりについての審議会なので、体に良くないものについて、しょうがないという考え方に妥当性はないと思う。逆にこれについては厳しめに、野田市は国、県よりももっと厳しい目標設定をし、できるだけ皆さんに努力をしてもらい、目標を達成していくという方向に決めていいと考える。</p>
<p>会 長 内 田 委 員</p>	<p>ほかの質疑、意見を求める。</p> <p>35 ページと 37 ページに掲載の定期的に歯科検診を実施する障がい者入所施設の割合で質問したい。</p> <p>歯科検診割合が 100%に達しているが、障がい者の方がその次に歯科受診に行く割合を考えると、割合でいうとそこまで実施されていないのではないか。その上で、37 ページに歯科通院できない人への支援を行う、と記載があるが、具体的に説明いただきたい。</p>
<p>障がい者支援課長</p>	<p>目標設定の考え方としては、障がい者入所施設の検診の目標になっており、入所している障がい者の方は、健康診断の中で歯科受診をしているため、100%の実績となる。それ以外の通所施設の方や地域活動支援センターに通っている方に、そうした機会が難しくなっている。そこの促しの部分と、県の事業で疾患関係の巡回検診というのがあり、そういったのを地域活動支援センター利用者には活用してもらおうよう啓発している。引き続きそういった受診については、啓発を図っていきたい。</p>
<p>会 長 種 村 委 員</p>	<p>ほかの質疑、意見を求める。</p> <p>36 ページの歯周病疾患健診実績が、3%台で続いている状況で、行政から歯周疾患のはがきを5年ごとに出しており、4月に出してもらっているが、最初の頃は受診するが時間がたつと忘れてしまい、受診につながらないことが理由であると思う。</p> <p>あと今回、<sup>こうこう</sup>口腔がん検診を去年、今年と実施しているが、例年、募集をかけても200人前後の応募しかないが、去年からまめメールで受診の募集をかけたら、応募が増加し去年500件、今年は早期に締め切</p>

保健センター長	<p>りさせてもらい 400 名の応募があった。ということは、若年層はメールや SNS などから情報を得ることが多い。その中で、健康アプリを来年度から実施するとのことで、4 月、10 月などに、まめメールや健康アプリで歯周疾患のお知らせ等の周知ができれば、受診につながると思う。</p>
張 替 委 員	<p>歯周疾患健診の受診率は、かなり低下が続いており、課題だと思っている。提案いただいた健康づくりアプリによる周知やまめメールの活用は引き続き検討したい。</p>
張 替 委 員	<p>健康づくりフェスティバルを以前実施していたが、それが実施しなくなって以降、広く知ってもらおうという意味で、やめてからどのような変化があったか伺いたい。</p>
保健センター長	<p>健康づくりフェスティバルは来場者も多かったが、来場者が固定化していることや、健康作りに関心がないのではという課題があった。</p> <p>健康づくりフェスティバルを実施しなくなった代わりに、他のイベントを開催するときに、保健師等の職員が出向き、健康づくりに関する普及啓発、健康スポーツポイント事業の周知、骨密度の検査等の促しをしている。昨年 5 月に行われた健康スポーツ文化都市宣言式典の際にブースを出したり、今年 2 月の野田市駅のオープンフェスティバルにもブースを出したり、企業とも連携した取り組みを始め、関心を持ってもらえるよう引き続き取り組んでいきたいと考えている。</p>
会 長	<p>他の質疑、意見を求める。</p>
小 川 委 員	<p>資料 13 ページ中央、市が実施する具体的施策や取り組みの中の一 番上に枝豆のブランド化を推進するというところで伺いたい。</p> <p>8 月 6 日に NHK で枝豆特集がされ、栄養価が非常に豊かであり、海外でも枝豆がブームになっているという取り上げ方だった。野田市以外でも日本全国で枝豆産地が幾つかあると思うが、枝豆の産出量で昔は何番目ぐらいになっているのか。ブランド化を推進しますと書いてあるが、これがどのぐらい進んでいるのか、どのような検討を今しているのか伺いたい。</p>

農政課長	<p>出荷量については、平成14年度に野田市と関宿町とを合わせた数字だが、出荷量が日本一になった。それ以降は国での出荷量の調査をやめているので分からないが、野田市の枝豆はテレビで取材されたりもしていることから、既にブランド化が進んでいるという認識をしている。今後については、農協がメインになり、のぼり旗の作成、農政課が関わっているブランド推進協議会の中で新たに枝豆を使った豆腐作りなどの商品作りを考えているが、まだ検討段階である。また、ブランド力を維持していくことにも力を入れしていきたい。</p>
小川委員	<p>ブランド化を進めるに、推進協議会あるいは農協と協議しながらやっているのは承知したが、一般的にブランド化という場合に、ネーミングというのが非常に大事だと思う。そういうネーミングを含めて検討しているのか伺いたい。</p>
農政課長	<p>ネーミングについては今後、検討したいと思う。</p>
会長	<p>ほかの質疑、意見について伺う。</p>
島田委員	<p>健康づくりアプリについて伺いたい。アプリ内で取得したデータは、集計する予定はあるか。</p> <p>それと17ページの市が実施する具体的な政策取組の中で健康づくりアプリの活用を主とするスポーツイベント、ウォーキング教室、のだまめ学校、シルバーリハビリ等でこのアプリで何かの目的としてデータを取っていくという考えはあるか。</p>
保健センター長	<p>健康づくりアプリについては、事業者の選定を進めている段階である。概要は、市民がスマートフォンにアプリをインストールし、歩数に応じてポイントがたまる、体重の記録をつけるとポイントがたまる仕組みで、参加された人のデータが蓄積はされていくと考える。そういったデータは活用して分析ができたらと思うが、アプリ仕様については今後、事業者が決まり、打合せをしていく中で健康づくりの効果が高まるような形で進めたいと考えている。</p>
島田委員	<p>個人情報に関わるため、データの取り扱い方が大変だと思うが、それが全てクリアされた場合に、薬剤師会としても薬局はそういうこと</p>

	<p>を発信できる位置にいるため、セルフメディケーションの関係からも活用できるようなアプリになると面白い。</p>
<p>会 長</p>	<p>ほかの質疑・意見を求める。</p>
<p>清 岡 委 員</p>	<p>市の施策でやるべきことが述べられているが、問題は、これをどれだけ効率的に効果のある方法でやるかということ。歩数測定はスマートフォンでも計れるので、エサで釣るようなつもりはないが、効率の高いものを検討してもらいたい。</p>
<p>保健センター長</p>	<p>今、実施している健康・スポーツポイント事業は、ポイントをためることで年間で最大3,000円分のクオカード等の賞品がもらえる仕組みである。応募者の7割は高齢者が占めているが、40代、50代などの病気になる前から健康づくりに取り組んでもらい、生活習慣病を予防したいと考えている。そういった年齢層の方に届きやすいツールということでアプリの中でもポイントをためることでインセンティブが発生する仕掛けを考えている。</p>
<p>会 長</p>	<p>ほかに質疑・意見を求める。</p> <p>&lt;質疑・意見なし&gt;</p> <p>ほかに質疑・意見がないため、議題3については事務局案のとおり承認とする。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>連絡事項について事務局に説明を求める。</p>
<p>会 長</p>	<p>&lt;事務局説明&gt;</p>
	<p>事務局からの説明について了承を求める。</p> <p>以上をもって本日の議題が全て終了した。</p> <p>午後3時15分、閉会を宣言した。</p>